静岡陸協会報

第18号（2015年3月29日発行）
一般財団法人
静岡陸上競技協会
〒420-8508
静岡市葵区鷹匠1-14-31
吉野寿ビル2F
TEL・FAX 054-253-9801

「駅伝からもらった心の宝」

静岡陸上競技協会
副会長　遠藤　榮

昭和三十年中頃、東京大阪間都府県対抗駅伝競走大会がありました。これは、皇太子殿下のご成婚を記念して始められた駅伝であります。東京大阪間を都府県対抗で争う大会で、東京をスタートして大阪までの六三八・七kmを五十六区間に分け、一チーム二十三人のエントリーで十五都府県三九〇人の選手で競う大会でありました。

私は、第三回大会に十九歳で静岡県チームにエントリーされ、意気揚々として参加しました。監督は大昭和の深沢さんと磐田農高の小笠原先生でありました。選手は、大昭和九名、鈴木自動車六名、旭化成五名、東レ一名、中京大一名、国産電機一名の二十三名でありました。

私は三日目、第二十区で日坂から掛川西高校までの七・三kmの短い区間でありました。私は胸を躍らせ、チョッピリ不安を持ちながら中継所に行って驚きました。山の中ですので応援などいないと思っていましたが、沿道にはぎっしりと、そして静岡ガンバレー、静岡ガンバレーの大声援でした。

私は頭の中が真っ白になり、どうやってタスキを受け取ったのか、どうやって次の走者に渡したのかわからないほどあがってしまい、結果は大ブレーキ。監督、コーチに叱られ意気消沈していた時に県陸協の和田会長のお父さんが来て、遠藤君頑張ったね、この次もっと頑張ればいいんだよと私の肩をたたいて励ましてくれました。五十年以上もたっておりますが、今も私の心に焼き付いています。

しかし、私は次に走った区間でも何とかしなければならないと焦り、最悪の結果になってしまいました。監督や和田さん、そして一緒に走ったチームの選手に申し訳なくて言葉さえ出ませんでした。いっそ琵琶湖に飛び込んでお詫びしたい気持ちでした。その失敗が私の心の中に一生残っています。

私はやがて青年団活動から政治の道に進み、三十三歳で富士市議会議員に当選、政治の世界へ。

三十七歳で静岡県議会議員選挙に挑戦、しかし落選。その時の苦しみも大変なものでした。職も失い、失業保険を頂き次期選挙までじっと歯を食いしばり耐えていました。この苦しさを耐え抜いてこられたのも、原点は駅伝の苦しみでした。あの時はもっと苦しかった。だから頑張ろうと。そして昭和五十八年に二度目の挑戦でみんなの力を借り当選することができました。

私にとりまして、この二つの負の財産が心の宝として生きて来ることができました。陸上競技ありがとう。東京大阪駅伝ありがとう。私の宝です。

後期事業報告

静岡陸上競技協会
理事長　鳥井啓市

会員の皆様方には、本協会が主催・主管を務めた数多くの競技会運営にご尽力いただき、円滑な大会運営をする事ができましたこと、予定されていた事業日程の大半を大過なく実施できましたこと、重ねて感謝申し上げます。誠に有り難うございました。

では、昨年の八月以降実施された中で、主な競技会の結果を以下に記載し、後期事業報告に代えさせていただきます。

【国際大会では…】

第十七回アジア競技大会（韓国9／27～10／3）において、個人では石代啓祐君（スズキAC）が十種競技優勝、中村明彦君（スズキ浜松AC）が三位、新井涼平君（スズキ浜松AC）が男子やり投げ二位、高瀬慧君（富士通）が男子一〇〇m三位、萩原歩美さん（ユニクロ）が女子一〇、〇〇〇m三位、リレー種目では男子四×四〇〇mR優勝（飯塚翔太君・ミズノ三走、加藤修也君・早大四走）・男子四×一〇〇mR二位（高瀬君二走・飯塚君四走）、女子四×四〇〇mR二位（松本奈菜子さん・浜松市立高二走）でメダルを獲得、その他個人種目に参加した七名が入賞するなど、大会に参加した静岡県勢十三名全員が入賞を果たすという素晴らしい成績を収めてくれました。しかし、一見喜ばしい結果も世界レベルには未だ届いておらず、アジアの域を超えての国際大会という世界では、およそ厳しい成績が予想されます。選手諸君には、今回のアジア大会で得た経験をステップアップの為の刺激、自身の成長の糧と捉え、常に高みを目指し真摯に努力を重ねる日々であって欲しいと願うばかりです。

【国内大会では…】

第六十七回全国高校総体（山梨7／30～8／3）では、松本奈菜子さん（浜松市立）が女子四〇〇mで二位、藤森菜那さん（浜松市立）が女子一〇〇mHで三位。他に個人種目では七名が入賞、更に女子四×一〇〇mR、女子四×四〇〇mRも入賞を果たしました。素晴らしい活躍を見せた昨年と比較すると、若干の物

足りなさは感じるものの、参加選手はそれぞれに自分の持てる力を、全国総体という大舞台の中で十分に発揮してくれました。

第四十一回全日本中学陸上選手権（香川8／18～20）では、松島彰吾君（浜松北浜）が男子三〇〇〇m三位、他個人種目で七名が入賞、女子四×一〇〇mRでも入賞を果たし、昨年を上回る（昨年の入賞者は四名）結果を残してくれました。

第三十回全国小学生交流大会（横浜8／23）においては、田村瑠那さん（静岡吉田AC）が六年女子一〇〇mで二位、富士陸上が女子四×一〇〇mRで三位、他個人種目で四名、男子四×一〇〇mRが入賞しました。

日本ジュニア・ユース選手権（名古屋10／3～5）においては、赤間祐一君（筑波大）が男子ジュニア砲丸投、松本沙耶子さん（都留文科大）が女子ジュニア一〇〇m、藤森菜那さん（浜松市立高）が女子ユース一〇〇mHでそれぞれ優勝、他個人種目でもジュニア六名、ユース七名が入賞し、若い世代のこれからの活躍に対し、これまでにも増して大いなる期待を寄せるところです。

第六十九回国民体育大会（長崎10／18～22）では、夏の高校総体等の結果からしても、昨年に比べかなりの苦戦を強いられるものと予想しておりましたが、加藤修也君（早大）が、成年男子四〇〇mで見事に優勝、男子共通四×一〇〇mRで三位、他個人種目でも十七名が入賞し、男女総合四位という予想を覆す見事な成績を残してくれました。この結果は、日頃より指導いただいている所属チームの協力と、強化委員各位の溢れんばかりの情熱が選手個々の心中に深く浸透し、「チーム静岡」の底力となって随所に表出した結果に他ならないものと改めて感謝申し上げる次第です。

今や冬の風物詩と称される駅伝。選手達がそれぞれの誇りを胸に駆け抜ける都大路…、沿道に陣取り声を枯らす老若男女の姿…、そこに生まれる一体感こそが感動を呼ぶ駅伝。その時節を迎えて先ず報告すべき大会は第三十回東日本女子駅伝（福島11／9）です。昨年の参加を契機に再び参加する事を決めたこの大会で、本県は六位と順位こそ落としたものの、過去最高記録を樹立し、二年連続の入賞となりました。復興を願う当地の思いを受け参加を決めたいきさつもあって、感慨無量とも言える大会となりました。

第二十二回全国中学校駅伝（山口12／14）に、静岡県代表（男子）として初出場した浜松北浜中学校が、県勢十三年ぶりの入賞となる四位でゴールしたことも、喜ばしい報告の一つとなりました。

昨年から富士山女子駅伝と銘打って再開催された全日本大学選抜女子駅伝（富士市、富士宮市12／23）は常勝名高い立命館大学が見事二連覇を成し、二位大阪学院大学、三位大東文化大学という結果でした。今年は好天に恵まれ、昨年にも増して沿道を埋め尽くす駅伝ファンの大声援に、タスキに互いの思いを繋ぐ選手たちも大いに励まされたことでしょう。また、各区間からは富士山の雄姿が見られ、富士山駅伝の名にふさわしい華やかで盛大な大会となりました。

県内に目を向けると、十二月六日に実施された静岡県市町対抗駅伝は、十五回記念大会であることを念頭に置きつつ、東日本大震災復興支援継続の主旨に則り東北陸協に出場を依頼、本大会の開催にあたって手本となった福島県（会津若松市チーム）の快諾を得て、記念大会を飾るにふさわしい、随所に絆をも感得できる盛大な大会となりました。結果は市の部では浜松市西部が五連覇を成し遂げ、二位浜松市北部、三位御殿場市という結果でした。町の部は小山町が二連覇、二位函南町、三位長泉町でした。節目の年を盛大のうちに終え、次回大会からは、目下検討中の改善策に着手し、より市町にとって意義深い形で実施できるよう、最大限の工夫を図りたいと考えています。

新年を迎えて行われた全国都道府県対抗駅伝では女子（京都1／11）男子（広島1／18）ともに表彰台を目標に挑みましたが、思いとは裏腹に中心となる選手に相次いで寒気による故障・体調不良が生じ、残念ながら目標達成とはなりませんでした。しかし、この状況下にも交代した選手がそれぞれに自己記録に迫る走りを見せ、チーム全体にも前向きの緊張感が漂い、男女ともに入賞に後一歩の九位という成績をたぐり寄せてくれました。全国の名だたる選手達と同じレースを走ったという経験は、今後に大きな夢を、可能性をもたらしてくれたものと信じています。

十二月七日には、日本陸連主催による「アスリート発掘育成プロジェクトU16クリニック」が草薙陸上競技場で開催されました。日本陸連の繁田進普及育成委員長他五名の講師を迎え、午前に理論講習と実技「基本練習」、午後には実技「種目別練習」が実施され、中学生一八五名、指導者三十五名、保護者五十六名が参加し積極的・主体的に取り組む姿が見られました。

おりしも、二〇二〇年「東京オリンピック」を視野に入れて、組織委員会は東京都内でアスリート委員会を開き、若手選手が社会貢献活動などに取り組む「若手アスリート参画プロジェクト」を始動させると明言しました。その主旨には、東京オリンピックを目指す若手の選手達に、小中学生を指導する経験を積ませたり、海外の選手達とコミュニケーションする方法を教えたりすることを通して、世界で活躍し、スポーツ界に貢献できるアスリートを育てる事を意図するとあります。まさに、今やスポーツ界は、心身共に健全なる精神を体現するアスリートの育成に心血を注ぐ時期に入ったと言えます。年度末に向け、寒さ和らぐ候とはさすがに言えない中、当会報が発刊されるまでには第二回静岡マラソン（3／1開催予定）をはじめ、浜松シティーマラソンなど、各市町単位での大会が実施の運びとなる事でしょう。運営にあたられる役員方々には厳しい時節となりますが、盛大かつ安全に実施されますよう、今少しの頑張り、ご尽力をお願い申し上げます。

終わりにあたり、過日、長崎国体の会場において日本陸連の表彰が有り、秩父宮章に和田隆保氏、高等学校優秀指導者章に吉田健一氏、中学校優秀指導者章に佐々木茂雄氏が、日々弛まぬご指導の実

を評価され、表彰の運びとなられましたこと、静岡陸協の喜びとして報告させていただきます。今後とも、県陸協へのご尽力はもとより、若手育成にも何卒そのお力をお寄せいただきたく切にお願い申し上げる次第です。

静岡県三地区報告

私と陸上競技

東部陸協理事長　望月紘一

六年間、東部陸協の理事長をやらせていただいた中で富士山女子駅伝を静岡陸協の総力で開催できたことが一番嬉しかったことでした。県警本部長を説得していただき、そしてメインスポンサーになってくれたスズキの鈴木修前静岡陸協会長には感謝してもしきれない思いでいっぱいです。今後も続けて開催でき、ますます発展していくことを心から願っています。

さて、私も古稀を迎え、陸上競技に対する今までの体験や、出会いについて今回は思いのままに書かせてもらいます。自分中心になってしまうことをご容赦ください。

高校時代の一番の思い出は、全国インターハイの八〇〇メートルリレーの決勝でした。当時は六チームで争いました。

私は富士高校のアンカーとして七八〇メートルまで一位でした。最後に目黒高校の飯島選手に抜かれてしまいましたが、それよりも東部大会から競い合った日大三島高校と沼津商業高校という静岡県の東部のチームが共に全国大会の決勝に残り、最後まで競い合えたことが忘れることができないことでした。このことが私が静岡県の東部を愛する原点になったような気がします。

大学時代は一年生の時、高校の先輩である池田毅さん（現西部陸協会長）がやり投げで日本インカレ優勝、私も走り幅跳びで六位入賞できたこと、二年生の時は、同じ高校の先輩である鳥居（現渡邊）義正さんが東京オリンピックに出場したこと、四年生の時は、進路のことで部長（故浅川正一先生）から福井県に国体要員で行くことをかなり強く勧められたり、大学のコーチの話などもありましたが、静岡に帰ることを決断したことが印象に残っています。

教員生活では、新任校の御殿場高校、次の富士宮農業高校で駅伝と出会い、夢中になってしまいました。特に、富士宮農業高校では十年連続東海大会出場を讃え、遠藤精一君が中心になって卒業生をまとめ、記念の楯を贈ってくれました。私にとって大切な宝物になっております。

全国インターハイには二人の入賞者を出すことができました。富士宮農業高校時代の風岡（現石川）孝君と富士東高校時代の大石港与君ですが、私の指導というより、彼らの想像を絶する努力を私はただ見守ったにすぎませんでした。大石君は今年のニューイヤー駅伝でも五区の区間賞を獲得し、トヨタ自動車優勝に貢献、小柄な身体でがんばってくれている姿に勇気と感動をもらいます。

六年間、県の陸上競技の総監督をやらせていただいた国体での体験も私の貴重な財産になっております。男子監督のスズキの故永田先生、女子監督の稲葉先生と力を合わせた平成十五年の静岡国体の閉会式後、普段は怖くて近づきがたい印象さえあった永田先生が号泣しながら「望月、稲葉、よくやった。」と手を握ってくれたことが私の心に熱くて深い感動を残してくれました。

東部陸協は私の最も信頼する稲葉勝巳氏が今後を引き継ぎ、ますます成長していってくれるものと確信しています。

皆様、本当にお世話になりました。

中部陸上競技協会報告

中部陸協理事長　大塩正則

一九四六年三月創立の中部陸上競技協会は今年で六十九年目を迎えました。今日まで多くの諸先輩方のご尽力により県陸協の中枢団体として、草薙陸上競技場で開催される競技会の主管陸協として運営面での協力をさせていただいております。これも会員の皆様の深いご理解と献身的なご協力により続けてくる事ができましたが、年々会員数も減少し今年度の登録数が二九八名となり、公認大会開催が多い事を考えると今後が心配になります。

元名誉副会長故伊藤英一先生・故亀山敏郎先生が中部陸上競技協会の将来を見据え、市民マラソン大会開催を計画され又地域での陸上競技選手育成を目指した市民大会開催などに尽力されておりましたが、昨年三十回記念大会を盛大に開催した日本平桜マラソン大会、四月開催されます三十回記念焼津港マラソン大会、そして駿府マラソン大会を改組し静岡市が多くの団体と共催した中部地区初の公認フルマラソン大会、二〇一四静岡マラソンが開催された事はご両人の功績が大きい事が伺えます。特に、静岡マラソンについては本当に時間のない中、コース作りに始まり全国から一二、〇〇〇人のランナーを向かえる為少人数の事務局で早朝から夜遅くまでの業務は大変でしたが、大会当日最悪の天候の中、会員の皆様の温かいご協力で素晴らしい大会運営ができました。今年度で基盤ができましたので、今後はランナーにとって静岡で走って本当に楽しかったと思われる大会づくりを工夫して行くべきだと思っております。

選手の活躍をみますと、八月に開催された全国小学生交流大会で、六年生女子一〇〇mで吉田ACの田村瑠那さんが13秒06で第二位の素晴らしい成績でした。同じく八月開催の全日本中学選手権大会で藤枝中学三年生の服部聡太朗君が三〇〇〇mで第五位8分47秒46の好記録でした。

十月長崎で開催された国民体育大会で少年Aハンマー投げで島田樟誠高校三年生大坪瑛貴君が第四位58m71の自己ベストでした。

アジアジュニア大会、女子棒高跳で清水東高校三年生、水島恵さんが第三位に入賞しました。長崎国体でも第二位に入賞しています。

今年も中部選手権大会に出場してくれた飯塚翔太選手（ミズノ）は、アジア大会男子二〇〇mで第四位、四×四〇〇m

Rでは優勝と大活躍をしてくれました。各選手の今後の活躍が楽しみです。

今後も、静岡県中部陸上競技協会の伝統を守り、陸上競技を通して地域の活性化、強化普及に尽力していきます。

西部陸協の活動を振り返って

西部陸協理事長　森下哲治

平成二十六年度の西部陸協の大会は、西部駅伝、中日浜名湖一周駅伝、浜松シティマラソンを残し、すべて無事終了することができました。また、西部地区の選手の皆さんの活躍と、ご指導いただいた先生方や審判に携わっていただいた方々に心から感謝申し上げます。

海外の試合では、五月にバンコクで行われたユース・オリンピックに浜名高の犬塚渉選手と浜松市立高の藤森菜那選手が出場。藤森選手は一〇〇mHで、見事優勝して、世界ユースオリンピック（南京）にも出場いたしました。

また、六月に行われたアジアジュニア大会（台北）には、杉浦はる香選手（浜松市立―青山学院大）が四〇〇m、坂梨雄亮選手（浜松西―中央大）が四〇〇mHに出場。七月に行われた世界ジュニア大会（ユージン）には、加藤修也選手（浜名―早大）が四〇〇mとリレー、油井快晴選手（浜松市立―順大）も四〇〇mとリレー、坂梨雄亮選手が四〇〇mH、犬塚渉選手がリレー、山本菜緒選手（常葉菊川高）が三〇〇〇mに出場。加藤選手は四〇〇mで銀メダルを獲得。また、加藤選手と油井選手が出場した四×四〇〇mRでも見事銀メダルを獲得しました。

そして、九月から十月にかけて行われたアジア大会（仁川）には、スズキ浜松ACから新井涼平選手、村上幸史選手、右代啓祐選手、中村明彦選手、三郷実沙希選手、海老原有希選手の六名が出場。右代選手と中村選手が十種競技で金メダルと銅メダル。新井選手がやり投げで銀メダルを獲得しました。この他に、加藤修也選手、松本奈菜子選手（浜松市立高）も出場。加藤選手は、四×四〇〇mRで金メダル。松本選手も四×四〇〇mRで銀メダルと、西部地区に関係の選手が大変活躍してくれました。

また、今年度の全国大会の優勝者は左記のとおりでした。

○日本選手権

（6／6～6／8　福島）

・男子やり投げ　新井涼平
　スズキ浜松AC　81m97

・女子やり投げ　海老原有希
　スズキ浜松AC　57m77

・女子三〇〇〇mSC　三郷実沙希
　スズキ浜松AC　9分49秒85

・女子四〇〇m　松本奈菜子
　浜松市立高　54秒00

○日本選手権混成

（5／31～6／1　長野）

・男子十種競技　右代啓祐
　スズキ浜松AC　八三〇八点

（日本新）

○全国高校選抜

（8／30～8／31　長居）

・男子一〇〇〇〇m　太田智樹
　浜松日体高　30分07秒33

○全国定通制高校

（8／8～8／10　駒沢）

・男子砲丸投　柏木　惇
　浜松大平台高　12m05

○日本学生対校選手権

（9／5～9／7　熊谷）

・男子四〇〇m　加藤修也
　浜名高―早大　45秒88

○国民体育大会

（10／18～10／22　長崎）

・男子四〇〇m　加藤修也
　浜名高―早大　47秒05

このほかにも、静岡県市町駅伝大会では、浜松市西部が五連覇を飾り、全国中学駅伝大会に出場した浜松北浜中学は、見事四位に入賞いたしました。これ以外の大会でも、上位入賞を果たすなど、選手の皆さんの活躍に対して感謝するとともに、来年度に向けて、より一層の精進をお願いしたいと思います。

最後になりましたが、会員の皆様には西部陸協の事業に対し、日頃より多大なるご協力をいただき感謝申し上げます。これからも健康には十分留意され、来季におきましても、さらなるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

静岡マスターズこの一年

静岡マスターズ理事長　高橋　正

静岡マスターズ陸上競技連盟は三十周年記念式典を三月九日、センチュリー静岡ホテルに川勝静岡県知事、和田静岡陸上競技協会会長を始め、数多くのご来賓の方々をお迎えし、開催致しました。会員一同、これから会の発展を誓い合い有意義な式典が出来ました。

シーズンインすると、五月には第三十回静岡マスターズ陸上競技選手権大会を静岡草薙陸上競技場で開催致しました。

第十八回アジアマスターズ・第三十五回全日本マスターズ陸上競技選手権大会は、岩手県北上市で九月十九日から二十三日までの五日間行われ、本県からは、男女五十三名の選手が参加しました。十八種目に優勝、二種目において、アジア・日本新記録を樹立しました。十一月十日、優勝メンバーが川勝県知事を表敬訪問し、結果報告を致しました。

十月十八・十九日には、第二十五回全日本マスターズ混成陸上競技選手権大会を静岡草薙陸上競技場で開催致しました。北は青森、南は沖縄から一二四名の参加がありました。

二日間共晴天に恵まれ、日本新記録が五個誕生致しました。同時に行われたトラック記録会においても、二種目に日本新記録が誕生しました。

静岡陸上競技協会の役員・審判員の皆様のお陰で、大会運営もスムーズに行われ、参加者からも好評で、大変喜ばれました。今年も計画されておりますので宜しくお願い致します。

マスターズ陸上は、昨年四月より年齢が十八歳以上（学連登録者を除く）となりました。高校を卒業し、社会人となられ、陸上競技を続けたい方、是非、マスターズに登録されますよう、お待ちしております。

今年の全日本マスターズ陸上競技選手権大会は、東海地区・岐阜県で開催されます。期間は十月三十日から十一月一日です。是非多くの方々の参加を期待しております。

各委員会活動

総務委員会

第一回　顕彰委員会（五月二十四日）
○静岡陸上競技協会による表彰者決定
第二回　顕彰委員会（九月二十三日）
○日本陸上競技連盟、静岡新聞・静岡放送スポーツ賞、静岡県体育協会体育章の各栄章候補者推薦決定
要覧会議（一月十二日）
○平成二十七年度　要覧原稿確認と編集作業（陸協関係者）

（総務委員長　石野吟策）

競技委員会

県陸協製作陸上競技運営ソフト

十年ほど前から記録処理の効率化のために陸上競技運営ソフトを開発し、改良を重ねてきた。その効果があり、以前は競技会が終了してから記録処理のためにかなりの時間を要して作業を行ってきた。現在は競技会終了して短時間で作業が終わり、他の審判員と同じ時間に帰宅することができるようになった。また日本陸連への公認申請の電子データにも対応できるので、静岡県では日本中で唯一全ての競技会で電子申請を行っている。全ての公認競技会だけでなく、未公認の競技会や市単位の小学校陸上や校内体育大会、校内マラソンにまで使用が進んでいる現状である。また日本中の他県でも同じような記録処理が必要であり、その記録処理に苦労していることもあり、他県からも問い合わせがある。他県からの問い合わせにも答えていることで、他県での使用も増え、現在静岡県以外では愛知県、山梨県、神奈川県、埼玉県、茨城県、福島県の一部でも使用されている。今後も静岡県の陸上競技の運営の効率化だけでなく、他県の陸上競技運営のお手伝いができればと考える。

（競技委員長　永田勝久）

強化委員会

第六十九回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」では過去三年間（山口・岐阜・東京）の天皇杯順位が二位であったことから、優勝を目指して強化を図ってきた。今年の大会から実施種目が改正となり、昨年の入賞者が一部参加できないなど本県としては厳しい状況が予想された。少年種目は夏の全国高校総体の入賞者が今年は少なく特に女子は入賞数が四（個人二・リレー二）と苦戦が予想された。成年については主力選手が国体前にアジア競技会・全日本実業団が予定されていたことから、コンディションの維持について各コーチから心配の声が大きかった。アジア競技会参加選手については時間的な拘束も多く、優勝を目指した男子のリレーのバトン練習についても国体会場で実施するのがやっとという状況であった。今回の国体チームの特徴としては少年A種目に高校二年生が三人、少年B種目に中学生が二人選考され、成年種目についても九人中六人が大学生（内一年生が三人）と若いことであった。その上、競技歴の浅い少年Aハンマー投げの大坪選手、少年共通五〇〇〇m競歩の青山選手が含まれていた。この若いチームで結果を出すためにはホームコーチと強化スタッフの連携が必要であり、今回はその連携がしっかりとできたことが大きかった。特にハンマー投げの大坪選手は大幅な自己記録の更新により第四位に入賞、少年共通五〇〇〇m競歩の青山選手も東海高校新記録を樹立し第二位に入賞する見事な活躍であった。また成年種目にあっても女子四〇〇mの名倉選手がインカレの不調から立ち直り七位に入賞。見事四年連続の入賞を果たした。この強化スタッフの献身的かつ的確なコーチングに対し脱帽するとともに、心から感謝をしたい。結果は種目別天皇杯順位四位（皇后杯順位十位）と過去三大会の結果からは順位を落としたが、大会前の予想順位を大きく上回る好結果であったと考える。

平成二十六年のシーズンが終わり、十二月からは冬期強化合宿がスタートした。今年は一昨年から継続している沖縄合宿に加え、新たにグアム合宿を追加した。沖縄は天候にも恵まれ、また投擲練習場も整備されていることから、跳躍・投擲両ブロックが暖かく充実した環境で質の高い技術練習を実施することができた。また短距離・障害ブロックが実施したグアムでは、関東学連選抜とグラウンドを共有することで県内合宿ではかなわないレベルの高いトレーニングを実施できたとの報告を受けた。沖縄・グアムともに予想していた以上の成果をあげることができた。年が明けて一月三日からは、来年度の全国高校総体・国民体育大会開催地である和歌山県紀三井寺公園陸上競技場で高校強化合宿を実施した。三日間天候にも恵まれ充実したトレーニングができた。合宿期間中に競技場だけでなく、公園内のレイアウト、宿泊場所などを確認することができ参加者は全国大会に向け非常に大きな情報を得ることができた。合宿参加者の来年度シーズンの活躍に期待をしたい。

一月十・十一日には都道府県女子駅伝が京都で開催された。過去最高順位を目指したが総合順位九位。十七・十八日に広島で開催された男子駅伝も総合順位が九位であった。今年度はトラックシーズンの結果が良かったことから駅伝も期待された。男女共に入賞まであと少しという残念な結果であったが来年こそ男女アベック入賞と過去最高順位の更新を目標に準備をしていきたい。

（強化委員長　杉井将彦）

普及委員会

八月に横浜で行われた全国小学生陸上競技交流大会では今年も県代表が大活躍した。六年女子一〇〇m・田村瑠那選手（静岡吉田AC）は13秒06で二位、女子四×一〇〇mR・富士陸上教室（諏訪部優月、藤原実央、渡辺紗良、室月里莉花選手）は52秒91で三位に入賞した。共に予選、準決勝、決勝と記録を上げていく底力を見せてくれた。また、二年連続出場となった六年男子一〇〇m・平野智也選手（磐田陸上）は12秒34で六位入賞を果たした。さらに、五年女子一〇〇m・山本記子選手（掛川陸上）は13秒86で、女子走幅跳・三谷朱音選手（沼津陸上）

は4m49で、女子走高跳・田中彩理選手は1m30で、男子四×一〇〇mR・浜松陸上（鈴木颯馬、齊田太郎、原田湧大、世古宗祐真選手）は52秒65でそれぞれ七位入賞を果たした。

また同月に岐阜で東海小学生リレー競走大会が開催された。男子リレーでは富士陸上、浜松河輪AC、浜北ACが三位、四位、六位入賞。女子リレーでは浜松河輪ACが大会新記録で優勝、伊東陸上、沼津陸上が三位、四位だった。男女混合リレーでは小笠AC、清水ミズノSCが一位、二位を占めた。

十二月には、大阪万博記念公園特設コース（芝生一周約一五〇〇m）で全国小学生クロスカントリーリレー研修大会が行われた。小学生という発達段階を踏まえ、無理な練習や過度の競争を避け、本県では希望チームから一チーム選出をしている。本年度は静岡吉田ACが出場し、全国の強豪チームと競いつつ、タスキをしっかりとつなぎ三十九位だった。

七月に行った小学生選抜練習会では、初日には全国大会出場選手の交流とガイダンスを含めた宿泊練習を行い、翌日には東海大会参加選手も集め、総勢一四四名で練習を行った。各種目で指導者が情報を交換したり、全国大会出場選手が一緒に練習したりしながら、「チーム静岡」の結束力を高めることができた。

十一月に行った小学生合同練習会には、五十三名の選手が参加した。本年度はハードルを小川富男氏、跳躍を福良翔氏、投擲を小林由英氏に指導いただいた。成長段階である小学生に多様な動きを経験させ、可能性を広げるために、三ブロックのうちから二ブロックを選択して練習するようにした。いろいろなチームの選手と一緒に専門的な練習ができた選手たちは、充実した笑顔で練習を終えていた。

十一月にエコパで行ったJAAFジュニアコーチ養成講習会には県内外から十六名の指導者が参加した。陸上競技全般について四日間三十時間で、実技や講義を受けるというハードなものだったが、参加者は熱心に受講し、資格取得を目指した。十五名の講師陣のほとんどを県内から招聘したが、力のある講師の方々ばかりで、今後も指導者育成の一助を担っていただければと思った。

本年度も熱心な指導者の方々のお力で、小学生の活躍が見られた。今後も、過度な練習や大会出場により、小さな芽が摘まれないよう、長い目での選手育成を期待したい。また普及委員会としても、講習会や練習会等の機会を通し、子どもの特性を把握した指導法を広めていくことができればと思う。

（普及委員長　豊田博幸）

審判委員会

一流の審判員をめざして

二〇一四年度も大きなトラブルがなく無事に終了したことは、皆様方の陸上競技に対する愛着とたゆまぬ審判技術の研鑽の賜であると感謝いたします。来年度も引き続き各種大会へのご支援、ご協力の程よろしくお願い致します。

さて、本年度のルール改正では、大きな変更はありませんでした。従来の審判員章がカード式になりました。皆さんにお渡しした通りです。ルール上では、助力に当たる部分で、競技場外で撮影した映像を競技者に見せてもよいことになりました。但し、競技者が映像機器に触れることは助力となります。大会では見かけることがありませんでした。また、跳躍競技では、ナンバーカードは一枚でもよいこととなりました。砂場に残った痕跡ですが、身につけていたものすべてが痕跡となります。また、大会中に審判員として相応しくない方には、総務がその任を解く権限を有することになりました。まだたくさんありましたが主な修改正です。今年度の大会ではいかがでしたでしょうか。

三月末の審判講習会では、審判部より、新たなルール改正や今年度実施した問題点等の説明があると思いますので、その折りに再度確認をして下さい。

審判委員会からお願いがあります。大会によっては、審判希望者が多く、希望しても依頼しない場合があります。お忙しい中、やり繰りをして○印をつけてくださっているにもかかわらず、依頼しないのは大変失礼なことと思います。依頼がなかった場合はご理解いただきたいと思います。また、希望者が少なく、編成するのが困難な場合は、○印がない方へ依頼する場合があります。誠に恐縮ですが、その節はご協力のほどよろしくお願いいたします。

次に、審判部署についてですが、審判編成時、ルールや審判技術に堪能で経験豊富な方を中心に編成していますが、必ずしも皆様方が希望する部署につくとは限りません。大変申し訳なく思います。皆様方には、固定した部署ばかりでなく、多くの部署を経験していただき、審判技術を磨いてほしいと願っています。時には普段と違う部署に配属されることがありますが、ご理解いただきたいと思います。大会当日は、ルールブックを熟読し、依頼された部署にてご協力いただき、一流の審判を目指していただきたいと思います。

大会終了時、旅費・日当をお渡ししていますが、その際、印鑑が必要となります。お忘れなきようお願い致します。

一流の大会を目指し、静岡陸協の益々の発展を願い、今後も宜しくお願い致します。

（審判委員長　井出幸夫）

施設委員会

今年度、来年度の検定

今年度検定を行った競技場は焼津市総合グラウンドです。長距離競走路は、しまだ大井川リバティとコース変更により行った静岡マラソンです。また、今年度中には富士総合運動場、草薙のメーンとサブがあります。来年度は、静大グラウンドと島田市陸上競技場があります。事前指導の競技場もいくつかあります。

競技場、長距離走路の維持管理は大変ですが、管理者の努力により良い状態に保たれています。しかし、一種、二種の競技場には二〇一七年問題があります。その年度までに基本仕様に合致していなければ、二種、三種に降格するということです。今までは予算等の問題で、基本仕様でなくても次の検定までに準備するという約束で公認競技場にしてきま

記録委員会

平成26年に樹立された記録一覧表

【一般の部】

・日本新記録	(男子)	十種競技	8308点	右代啓祐	スズキ浜松AC	5.31～6.1	日本選手権混成	長野
・東海新記録	(男子)	やり投	86m83	新井涼平	スズキ浜松AC	10.21	国体	長崎
		十種競技	8308点	右代啓祐	スズキ浜松AC	5.31～6.1	日本選手権混成	長野
	(女子)	3000mSC	9'49"85	三郷実沙希	スズキ浜松AC	6.8	日本選手権	福島
・県新記録	(男子)	5000mW	20'24"75	青山福泉	韮山高	10.21	国体	長崎
		やり投	86m83	新井涼平	スズキ浜松AC	10.21	国体	長崎
		十種競技	8308点	右代啓祐	スズキ浜松AC	5.31～6.1	日本選手権混成	長野
	(女子)	3000mSC	9'49"85	三郷実沙希	スズキ浜松AC	6.8	日本選手権	福島

【高校の部】

・東海高校新記録	(男子)	5000mW	20'24"75	青山福泉	韮山高	10.21	国体	長崎
	(女子)	100mH	13"56	藤森菜那	浜松市立高	6.20	東海高校総体	瑞穂
・県高校新記録	(男子)	5000mW	20'24"75	青山福泉	韮山高	10.21	国体	長崎
	(女子)	100mH	13"56	藤森菜那	浜松市立高	6.20	東海高校総体	瑞穂
		400mH	59"12	松本奈菜子	浜松市立高	11.16	西部月例競技会	浜松

【中学の部】

・東海中学新記録	(女子)	4×100mR	48"01	村山・石川・福永・木村	下田中	7.27	県中学通信	小笠山
・県中学新記録	(男子)	4×100mR(混)	42"84	川鶴・松下・石神・中道	静岡選抜	11.2	ジュニアオリンピック	横浜日産
	(女子)	4×100mR	48"01	村山・石川・福永・木村	下田中	7.27	県中学通信	小笠山
・県中学タイ記録	(女子)	4×100mR	48"61	鈴木愛・牧田・小池・鈴木聖	浜松積志中	7.27	県中学通信	小笠山

【小学の部】
該当なし

【外国人の部】
該当なし

記録委員会

したが約束が果たされないことが多く、陸連の施設用器具委員会で問題になり、二〇一七年までということになりました。レーン幅は一二五cmから一二二cmに変更ですが、これについては走路、助走路を改修するときでかまわないということになっています。

施設、設備のルール改正が毎年少しずつありますが、対応の方をよろしくお願い致します。（施設委員会　久保田金也）

平成二十六年の記録

樹立された新記録等は別表のとおり、例年よりも少なく物足りない感がある。国体・高校総体・全日本中学での優勝者が残念ながらいなかったので、新記録樹立に至る選手が少ないのもうなずける。しかし、各種目の上位十傑の平均記録を見てみると、実に多くの種目で過去十年での最高記録をマークしている。特に高校男子の長距離と跳躍、中学男女の短距離の好成績が目立つ。このように、各団体、各種目において強化が進んでおり、上を目指す選手層は厚くなっている。今後の更なる活躍を期待したい。

（記録委員長　赤堀順一）

スポーツ科学委員会

トレーナー部の活動

スポーツ科学委員会では、トレーナー部を組織し、主に県内の競技会で救護活動を行ってきた。しかし、競技会におけるフィジオルーム（トレーナーブース）での活動は、様々な難しさを抱えてきた。その中で、私が最も問題と感じてきたのは、競技会で主催者が開設するフィジオルームの役割は「障害の予防と応急措置に限る」ことがプログラムに明記されているにも関わらず、コンディショニングを求めてくる競技者が多い事であった。トレーナー部員は競技会全体のために活動しているわけだから、すべての競技者に公平に接することが求められる。そこで、津村トレーナー部長とも相談し、陸協委員会会議でこの問題について投げかけ、平成二十六年の主要競技会での打ち合わせでフィジオルーム設置の目的を確認させていただいた。その結果、平成二十五年と比較して、フィジオルーム利用の延べ人数が大幅に減った。

例：県高校総体　平成二十五年　七十四名　平成二十六年　四十八名

利用者数が予想していたよりも少なくなり、余裕をもって部員を配置できた。すべての競技会ではないが、黄色いビブスを着て場内各所に待機する組織的な活動をご覧いただけただろうか。平成二十六年はエコパのインフィールドが芝生の張替えで長期間使用できず、投擲種目を補助競技場で行う競技会もあったが、大きな事故なく終えられたことに胸をなでおろしている。

フィジオルームの利用者数減少は、トレーナーの重要性が広く認識され、帯同トレーナーを擁するチームが増えてきたことも一因であろう。今後は大会規模に応じて必要なトレーナー部員の数を見直したい。

トレーナー部の部員は、通常の審判員と同じ旅費・日当で一日活動している。活動の専門性からすれば、個人的には通常ありえないことと思っている。すなわち、部員は、他の審判員たちと同様、スポーツを愛し、陸上競技を愛し、社会貢献の意志ある陸協構成員なのである。静岡陸協にこのようなシステムを構築した先輩方に感謝し、より良い活動を目指して取り組んでゆきたい。

なお、こうしたフィジオルームにおける活動のデータ分析について、またコンディショニングやトレーニング方法についての質問・相談は、お近くのトレーナー部員、スポーツ科学委員に問い合わせて下さい。個人情報の問題に関わらない範囲でお答えします。

（スポーツ科学委員長　齊藤史門）

広報委員会

メディアと報道の関係

日本陸連運営実務研修会、メディア部門に出席した時のことである。陸上スポーツ報道は陸上競技界の普及・発展にあり、主催者側は常に競技会の情報発信と、多くのメディアに良い取材環境の場を提供するものである、と言っている。大会の規則はルールとしてきちっと守らせ競技者最優先、安全管理の徹底を第一と考える。取材者側の立場としては、最高の取材（カメラワーク・インタビュー等）を求めているので、可能な限り協力できる体制で望むべきであると言われている。また大会時は、一般審判員の理解も大切な要素と考えなければならない。本県においては、幸いメディアとの信頼関係は良好である。

報道陣の年間取材（県レベル主要十五大会）の統計をとり初めてから十年が経過した。平成十六年には一六〇人程度だったのが十八年に初めて二〇〇人台に入った。これまでの最高は平成十九年に二八七人が取材に駆けつけてくれた。それぞれの年によってスター的な選手がいるかいないかによって取材状況がだいぶ変わってくることが伺える。

当委員会の通常業務

(1)陸協「会報」の発行と日本陸連「時報」の原稿送信（年間二回）

(2)県内メディア（新聞社・放送局）訪問（三・七・九月の三回）

(3)年間各競技会取材記者対応と資料提供

年間計画どおり全て順調に消化した。

（広報委員長　橋本美智夫）

高体連全日制

平成二十六年度を振り返って

今年度より、前任の望月先生のあとを受け高体連委員長を務めることになりました。中体連や陸協の方々と連携を図りながら、本県高校生の陸上競技における環境整備に全力で取り組んで参りたいと思います。関係する皆様方には、今までどおりご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

さて、平成二十六年度の全国高校総体は、七月三十日から八月三日まで山梨県甲府市の小瀬陸上競技場で開催されました。昨年度は大活躍した本県でしたが、今年は残念ながら優勝者を出すことなく、入賞数も昨年を大きく下回る結果となりました。男子は七種目の入賞にとどまり最高順位も四位と、メダル獲得をも逃してしまいました。女子は、四〇〇mで松本奈菜子さんが二位、一〇〇mHで藤森菜那さん（ともに浜松市立）が三位に入りました。浜松市立高校は、両リレーの入賞と合わせて十八点を獲得し総合で七位に入賞しました。県別対抗では、男子が八位、女子は十一位に終わりました。男子は入賞した七種目とも異なる学校でしたが、女子は、惜しい種目はあったものの浜松市立の他に入賞はありませんでした。結果だけをみると淋しい大会となりましたが、大会最終日に行われた男子三〇〇〇m障害決勝での本県選手団の応援は圧巻でした。出場した加藤学園荻野選手に向けた、まるで地響きのような大声援は、大会期間中で最も素晴らしいエールであったと思います。また、その声援に応えた荻野君の気迫のこもった粘りの走りもまた、本当に見事でありました。来年度に向けたチーム静岡の奮起を約束するような、そんなレースであった気がします。

不振だった高校総体を受けて苦戦が予想された長崎国体でしたが、少年の部に出場した選手はよく頑張って結果を残してくれました。これは、強化委員会スタッフによるコーチングの賜物であり、これからも高体連と強化委員会が連携して静岡を強化していくことを再確認する、重要な意味を持つ大会だったと思っています。

県高校駅伝においては、男子は加藤学園高校が、女子は島田高校がそれぞれ二年連続で都大路への切符を手にしました。全国大会では、目標の順位には届かなかったかも知れませんが、両校とも大いに見せ場を作ってくれました。来年度も本県代表校が、京都の地でひとつでも上の順位を目指して襷を繋いでくれることを願っています。

優秀な選手を育成するためには、指導者が優秀でなければなりません。小・中・高の指導者が、より高い技術と指導理念を持って、継続的に選手を指導していくのです。高校の指導者は、小・中学校で育てていただいた宝物を丹精込めて完成品に近づける重要な役割を果たさなければなりません。その結果として二〇二〇年の東京オリンピックに、ひとりでも多くの本県選手が出場できるようこれからも努力してまいります。

来年度も高体連に対し、今までと変わらぬお力添えをいただきますよう、宜しくお願い致します。

（高体連委員長　川口雅司）

高体連定通制

今年度の定通制の活動は、全国大会の予選を兼ねる春季大会に一一六名が、秋季大会には六十一名が参加をしました。参加人数が低迷していた時期もありましたが、ここ数年は安定した参加数を確保

できています。やはり、人数が多くなればその分だけレベルも高くなっているという傾向にあるといえます。

全国大会には四十九名が参加しました。今回より長年親しまれた国立競技場から駒沢競技場へと舞台が変わりました。例年は猛暑の中での競技ですが、台風が接近し、時折横殴りの雨の中での競技となるなど終始不安定な天候となりましたが、男子砲丸投で浜松大平台の柏木君が見事優勝を決めました。砲丸投では出場した三名全員が入賞し男子フィールドの部準優勝に貢献しました。男子は入賞が六つとなり総合は七位でした。女子は健闘が光り、砲丸投で県大会優勝の静岡の南條さんが準優勝し、連覇を狙った静岡中央のマヤラさんが三位と続きました。マヤラさんは円盤投でも三位となり女子フィールドの部優勝に大きく貢献してくれました。三〇〇〇mで四位、走幅跳で五位、選抜リレーも六位など九種目に入賞し、総合も四位でした。女子については次年度も引き続き戦力の充実が期待でき、総合優勝も十分狙えるものと期待しています。

全国大会は次回が五十回記念大会となります。大会が盛り上がるものとなるよう静岡県からも一人でも多く参加できるよう呼びかけていきたいと思います。

最後になりますが、毎年多大な協力を頂いている東部陸協ならびに中部陸協、中部高体連その他関係各位にこの場を借りて御礼申し上げるとともに次年度も引き続きご協力お願いいたします。

（定通制委員長　浜田俊則）

第69回　国民体育大会（長崎）成績

天皇杯　97.5点　4位　　皇后杯　40点　10位

種別	男子			予選		準決勝		決勝		得点
	種目	選手名	所属	順位	記録	順位	記録	順位	記録	
成年	100m	高瀬　慧	富士通	2	10秒52	2	10秒32	2	10秒18	7
	400m	加藤修也	早大	1	47秒05	1	46秒72	1	46秒27	8
	800m	横山直広	中央大	4	1分52秒69					
	400mH	坂梨雄亮	中央大	5	52秒58					
	走高跳	鈴木真悟	福島大	−	−	−	−	7	2m12	1.5
	棒高跳	笹瀬弘樹	スズキ浜松AC	−	−	−	−	3	5m35	5.5
少年A	100m	犬塚　渉	浜名	3	10秒84	6	10秒68			
	400m	太田和希	沼津東	2	47秒83	1	47秒19	4	47秒25	5
	400mH	平松優弥	浜松商業	3	52秒52	2	52秒45	5	52秒11	4
	棒高跳	植松海理	浜松北	−	−	−	−	3	4m90	5.5
	走幅跳	村上　豪	菊川南陵	−	−	−	−	10	7m22	
	ハンマー投	大坪瑛貴	島田樟誠	−	−	−	−	4	58m71	5
少B	100m	中道泰貴	北浜中学	3	11秒00	7	11秒11			
少年共通	5000mW	青山福泉	韮山	−	−	−	−	2	20分24秒75	7
	走高跳	山内郁哉	浜松市立	−	−	−	−	7	2m06	2
	三段跳	大澄敦也	浜名	−	−	−	−	8	14m78	1
	4×100mリレー	中道・飯塚・犬塚・高瀬		2	39秒99	1	39秒81	3	39秒73	6
	男子合計得点									57.5

種別	女子			予選		準決勝		決勝		得点
	種目	選手名	所属	順位	記録	順位	記録	順位	記録	
成年	100m	松本沙耶子	都留文大	4	12秒13	8	11秒99			
	400m	名倉彩夏	中京大	2	56秒11	−	−	7	55秒84	2
	5000m	清田真央	スズキ浜松AC	−	−	−	−	3	15分33秒77	6
少年A	100m	渡邉ひかる	富士市立	2	12秒06	6	12秒16			
	400m	松本奈菜子	浜松市立	1	54秒58	−	−	2	53秒95	7
	3000m	山本菜緒	常葉菊川	−	−	−	−	6	9分16秒79	3
	走幅跳	笹村里沙	沼津西	−	−	−	−	12	5m68	
少年B	100m	櫻井　奏	浜松市立	6	12秒65					
	走幅跳	小野田吏紗	静岡東中	−	−	−	−	12	5m60	
少年共通	800m	松本奈菜子	浜松市立	1	2分10秒90	−	−	4	2分10秒62	5
	棒高跳	水島　恵	清水東	−	−	−	−	2	3m75	7
	4×100mリレー	櫻井・大竹・松本沙・渡邉		2	46秒27	5	46秒35			
	女子合計得点									30

中体連

一年間を振り返って

第四十一回全日本中学校陸上競技選手権大会は「若人よ　蒼き四国で　熱くなれ」のスローガンのもと、香川県立丸亀競技場で開催されました。

本県からは延べ男子五十一名、女子四十一名、計九十二名が参加しましたが、これは兵庫県、神奈川県に次ぎ全国で三番目の多さでした。

競技は一〇〇ｍで中道君（浜松北浜）が六位、四〇〇ｍで池内君（裾野東）が四位、三浦君（富士岩松）が七位、八〇〇ｍで佐原君（浜松富塚）が六位、三〇〇〇ｍで松島君（浜松北浜）が三位、服部君（藤枝）が五位、池田君（浜松三ヶ日）が八位、二〇〇ｍで石原さん（浜松西高中等部）が七位、四×一〇〇ｍＲで下田中学校が五位という成績でした。

また、横浜日産スタジアムで行われた第四十五回ジュニアオリンピックでは、Ａ二〇〇ｍでアマンゼ君（浜松陸上）が一位、Ｂ一一〇ｍＨで嶋野君（浜松湖東）が一位など、あわせて八種目で入賞することができました。

これらの素晴らしい成績の裏には、日々熱心な指導を続ける顧問の先生方やクラブチームの皆様、年三回の県合宿や昨年度から始まった東海合宿で丁寧な指導を行って下さるスタッフの先生方の姿があります。

今後も指導者講習会で情報を交換しながら、優秀な選手を育てていきたいと思います。

最後になりましたが、本年度も中学生の大会運営にご協力いただいた本協会の皆様にお礼を申し上げます。

ありがとうございました。

（中体連理事　鳥居俊秀）

しずおか市町対抗駅伝競走大会

十二月六日、第十五回記念県市町対抗駅伝競走大会が静岡市で行われた。今回は記念大会とし、県内全三十五市町に招待（オープン）として福島県の会津若松市チームが参加した。結果は市の部が浜松西部チームが五連覇を飾り、町の部は小山町チームが二連続優勝した。

また招待の会津若松市チームは総合九位でフィニッシュ、レース中は中継所や沿道からの声援や競技場でのゴール時はひときわ大きな拍手をあび、交流の役目も充分果たした記念大会であった。

市の部

①浜松市西部	2時間11分58秒
②浜松市北部	2時間14分34秒
③御殿場市	2時間15分39秒
④浜松市中央	2時間16分11秒
⑤富士市	2時間16分22秒
⑥静岡市静岡Ａ	2時間16分59秒
⑦富士宮市	2時間17分32秒
⑧藤枝市	2時間17分53秒
⑨磐田市	2時間18分05秒
⑩静岡市静岡Ｂ	2時間18分16秒

※入賞は10位まで

町の部

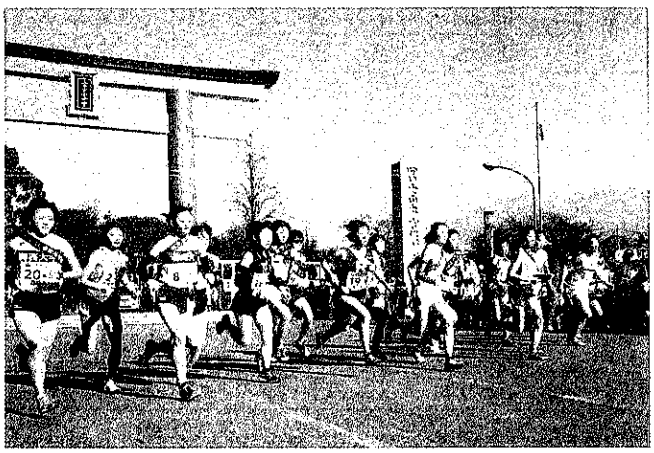
①小山町	2時間16分57秒
②函南町	2時間18分18秒
③長泉町	2時間19分24秒
④清水町	2時間22分40秒
⑤吉田町	2時間24分07秒
⑥森町	2時間27分26秒

※入賞は６位まで

全日本大学女子選抜駅伝大会

この伝統ある大会は県内に会場を移して二回目となった。十二月二十三日、師走の青空の下、雪化粧した富士山を背に富士宮市の富士山本宮浅間大社前をスタート地点とし富士市街を経由し同市総合運動公園陸上競技場をゴールとする七区間四三・四キロのコースを二十チームで行われた。

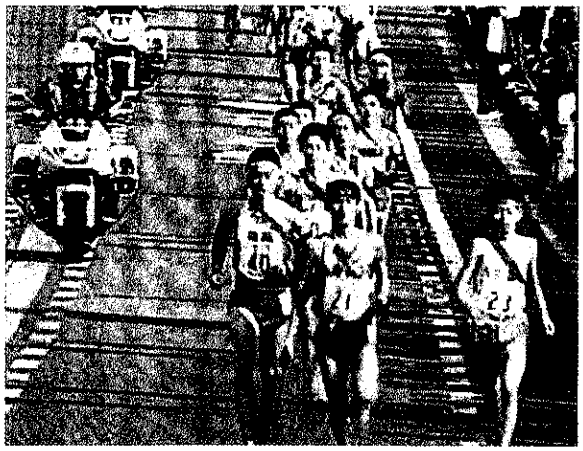
結果は全日本大学女子駅伝四連覇中の立命館大学が２時間22分20秒で二年連続優勝を果たした。準優勝は大阪学院大学（２時間24分４秒）、第三位は大東文化大学（２時間24分32秒）の結果であった。



全国都道府県対抗駅伝競走大会

天皇杯（男子）第二十回大会

一月十八日、広島市・平和記念公園前を発着点とする七区間四十八キロのコースで行われた。本県代表チームはよく健闘し第九位（２時間20分59秒）でゴールした。レース展開途中の状況は区間前半は上位をキープしよい流れをつくった。出場予定の主力選手を欠いたチーム編成であったが、オール静岡として各選手は郷土の声援にこたえ、次回に楽しみを残した。



本県選手の区間成績

（区、距離、選手名、所属、記録、区間順位、通過順位の順）

▽１区	（７キロ）	太田　知樹	（浜松日体高２年）	20分８秒	4	4
▽２区	（３キロ）	松島　彰吾	（浜松北浜中３年）	８分45秒	3	2
▽３区	（8.5キロ）	木村　　慎	（明大３年）	24分29秒	9	3
▽４区	（５キロ）	竹下　　凱	（常葉橘高３年）	14分28秒	4	3
▽５区	（8.5キロ）	藤曲　寛人	（加藤学園高２年）	25分42秒	25	9
▽６区	（３キロ）	渡辺　大地	（暁秀中３年）	８分48秒	2	9
▽７区	（13キロ）	中尾　勇生	（スズキ浜松ＡＣ）	38分39秒	19	9
総合	（48キロ）	２時間20分59秒				

皇后杯（女子）第三十三回大会

一月十一日、京都・西京極陸上競技場を発着点とする九区間四二・一九五キロのコースで行われた。本県代表チームは第九位（２時間19分13秒）でゴール。レース展開は序盤第一区でスズキ浜松ＡＣの安藤友香選手が区間一位（区間賞）をとり優秀選手賞に輝く、よい走りを見せた。また各選手は中盤・後半ともに健闘し最後まで入賞圏内で他県チームと争った。

本県選手の区間成績

（区、距離、選手名、所属、記録、区間順位、通過順位の順）

▽１区	（６キロ）	安藤　友香	（スズキ浜松ＡＣ）	19分15秒	1	1
▽２区	（４キロ）	三郷実沙希	（スズキ浜松ＡＣ）	13分19秒	37	11
▽３区	（３キロ）	竹平優花子	（浜松三ヶ日中３年）	９分49秒	12	11
▽４区	（４キロ）	清田　真央	（スズキ浜松ＡＣ）	12分52秒	4	8
▽５区	（4.1075キロ）	山本　菜緒	（常葉菊川高３年）	13分41秒	22	8
▽６区	（4.0875キロ）	松浦　佳南	（島田高３年）	13分20秒	8	9
▽７区	（４キロ）	秋山　瑠奈	（島田高３年）	12分44秒	2	7
▽８区	（３キロ）	田中　優名	（長泉北中３年）	10分21秒	6	8
▽９区	（10キロ）	牧川　恵莉	（スズキ浜松ＡＣ）	33分52秒	26	9

浜松シティマラソン

二月二十二日、第十一回大会が浜松市で行われた。大会はハーフマラソン、五キロ、三キロの三種目に一万人近い選手が参加した。ハーフマラソン男子はスズキ浜松ＡＣの伊藤太賀選手が１時間５分47秒で二年連続優勝、女子はホンダＲＣの河合さおり選手が１時間19分47秒で優勝した。

二〇一五静岡マラソン

三月一日、第二回大会が静岡市で行われた。公認四二・一九五キロのコースに一万二千人を超すランナーが参加した。男子総合はスズキ浜松ＡＣの片川準二選手が２時間16分31秒で優勝、女子総合は愛知電機の清水祥子選手が２時間38分24秒で制した。

編集後記

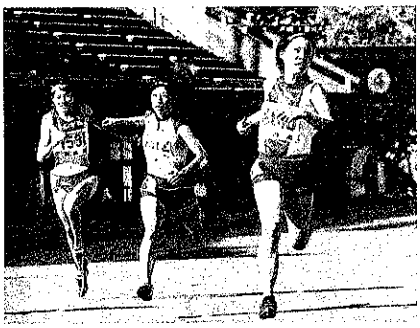
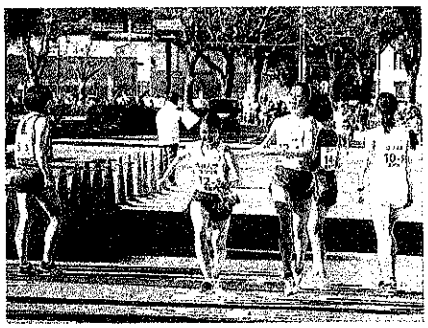
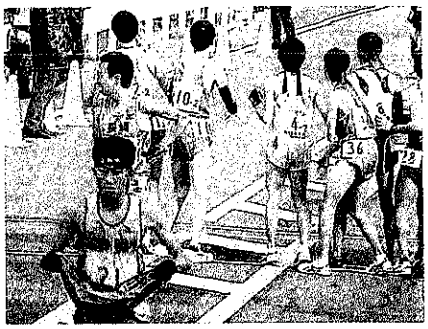
この「会報」は県陸上界、情報発信の一助として県内外関係機関に年間二回送付しています。平成十七年度（三月）の初刊から十年が経過しました。今回で第十八号となります。

昨年、本県では二〇二〇東京オリンピック「ふじのくに」スポーツ推進事業指定強化選手について各競技団体から六十人が発表されました。そのうち本協会からは最も多い十九人（第十七号で氏名発表）が選ばれ期待がふくらんでいます。

一九六四年（九十四カ国参加）東京大会以来半世紀以上たち、我が国で二回目が開催されることは陸上競技に限らずスポーツ界にとっては嬉しいことであります。

現代では規模も大きくなり世界二〇〇カ国以上が参加しています。開催が決定した以上、政治・行政・各団体等が協力しあって選手のための環境づくりを更に進めてほしいと願っています。（広報）

〔編　集〕
県陸協広報委員会・県陸協事務局
○橋本美智夫（編集・文責）
・水谷陽介（編集委員）
・片岡佳美（編集委員）
○写真（陸協報道　大多和・橋本）
（印刷・大日紙業㈱）

Photograph

○県中学新人戦大会
○県高校新人戦大会
○しずおか市町対抗駅伝大会
○全日本大学女子選抜駅伝大会
○全国都道府県対抗駅伝大会